

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還） 47

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43847

總理、ラウレル在京ライツ・ビン大使会談（昭四四、三、一八）

秘
無期限

ラウレル在京フィリピン大使の
佐藤總理訪問（会談要旨）

昭和54年5月
経済 /

5月17日、ラウレル在京フィリピン大使は
佐藤總理を訪問し、日比友好道路のための円借款
供与に係る総理の御配慮に対するマルコ
ス大統領の深甚なる感謝の意を伝える旨
述べるとともに、フィリピンの選舉、經濟の助
成等について約15分間懇談した。本件訪問は
マルコス大統領およびラウレル大使の願意説明
を主たる目的とするものであつたが、特に記録
に残すべき具体的な事項次のとおり。（上田経済
局長および國廣経済第一課事務官同席）

1. （総理）マルコス大統領が選舉に大勝して、
日比通商航海条約の批准を実現されるよう希
望する。この問題を選舉前の微妙な時に持出

していただく必要はないが、選舉のあとには
是非とも早期実現をお願いしたい。

（大使）批准問題は私の大使在任中の最大
の仕事と考えている。現在下院議長をしてい
る長兄もこの条約の批准に熱心であるし、上
院には末弟がいることもあり、私共としても
全力の努力をする考えです。

2. （大使）総理防災の際にお話して下さった
日本震園の件も着々と進行しており、引渡式
にはフィリピン議会から代表を派遣してもら
り予定になっています。日比友好道路の起工
式にも両方が日本から代表を派遣していただ
きたいと思っています。

3. （大使より再び借款について感謝したのに
対し）

(総理)これ（对比道路借款）で、戦争の
債務がなくなれば大変よいことです。こうい
うことを通じてお互いに戦争の債務をなくす
ように努力したい。今國の話は、いよいよ実
現するとなると日本側にいろいろやかましい
ことを言う向きが多くて大変だつたでしょう
し、フィリピン側も大分迷惑されたようですが、まとまつて結構でした。どうも御苦労さ
までした。

ラウエル在京フィリピン大使の
佐藤總理訪問（会談要旨その2）

昭和44年3月8日
経協I（國広）

3月18日ラウエル在京フィリピン大使が、
对比道路円借款についての謝意表明のために、
佐藤總理を訪問した際、ラウエル大使が、話の
序でという感じで總理訪米について質問したこと
に対する回答振りにつき、要旨次のとおり御
参考まで。

1.（總理はいつ訪米されますかというラウエ
ル大使の質問に対し、）

(総理) 秋から年末までの時期、できれば
11月半ばに行きたいと思っている。うま
く話ができればと思っているが、戦争で取
られた領土を平和裡にかえしてもらうのだ

から大変です。幸い米国は沖縄に施政権は持つているが潜在主権は日本にあるという好意的態度をとっているので、これを基礎に話を進め得る訳だ。

(大使) 私の感じでは、この問題は最終的には日本側の言うとおりになると思う。

(総理) それはどういう意味か。

(大使) 総理のお考えのとおりになるということです。

（総理） 北方領土の方はもつと難しい問題だ。ソ連は戦争終了後一ヶ月くらいの間にあそこへ入つて来たのだが、。

(大使) 中ソ国境紛争もあるし、。
総理はこのよう中ソ対立は東南アジアにとつて有利なことと考えられますか。

(総理) 中ソがしつかり手を握り一緒になつて東南アジアに手出しして来ると——例えば一致団結して北越援助をするなどになると——なかなか大変なことになるので、その意味では現在の情勢は有利だといふことができよう。

高官達

秘 無期限		タイプ指示	発信用	執務用	計
主 信		2	1	3	
付		Y	Y	Y	
属					

発送日
昭和44年3月20日

公 信 案 (分類)

文書課

公信番号 米北1合 第 658 号	公信日付 昭和44年3月19日
大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 官房長	主旨 アメリカ局長 参事官 北米オ一課長 主任
	起案 昭和44年3月19日 起案者 <i>太田</i> 電話番号 6446

受信者
ラウレル 在京カイロ・大使
新潟県
日本沖縄事務所
岩井
発信者
董知大臣

写送付先
(希望発送日)

件名
ラウレル在京カイロ・大使の佐藤総理訪問

GA-2 19 86 外務省 回覧番号

米北1合第 658 号
昭和44年3月19日

外務大臣

ラウレル在京カイロ・大使
佐藤総理訪問
3月18日 ラウレル在京カイロ・大使
佐藤総理訪問会見の会談記録
(経済農業問題専門部会) 貴方参考
用意書送付
3月18日

本信送付先 日米琉諮問委員会
日本政府代表 日本政府沖縄事務所長

GA-4 外務省

秘密		無期限																									
<table border="1"> <tr> <td>タイプ指示</td> <td>発信用</td> <td>執務用</td> <td>計</td> </tr> <tr> <td>主信</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>付</td> <td colspan="3"><i>YAMADA</i></td> </tr> <tr> <td>属</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>				タイプ指示	発信用	執務用	計	主信	2	1	3	付	<i>YAMADA</i>			属											
タイプ指示	発信用	執務用	計																								
主信	2	1	3																								
付	<i>YAMADA</i>																										
属																											
発送日 昭和44年3月20日																											
発行者 <i>YAMADA</i> タイプ <i>郵便局</i>																											
文書課員 <i>YAMADA</i>																											
<table border="1"> <tr> <td>公信番号</td> <td>米北1合 第 1115 号</td> <td>公信日付</td> <td>昭和44年3月19日</td> </tr> <tr> <td>大臣</td> <td>主答</td> <td colspan="2">起案 昭和44年3月18日</td> </tr> <tr> <td>政務次官</td> <td>アメリカ局長</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>事務次官</td> <td>参事官</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>外務審議官</td> <td>北米第一課長</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>官房長</td> <td>主任</td> <td colspan="2">起案者 <i>YAMADA</i> 電話番号 446</td> </tr> </table>				公信番号	米北1合 第 1115 号	公信日付	昭和44年3月19日	大臣	主答	起案 昭和44年3月18日		政務次官	アメリカ局長			事務次官	参事官			外務審議官	北米第一課長			官房長	主任	起案者 <i>YAMADA</i> 電話番号 446	
公信番号	米北1合 第 1115 号	公信日付	昭和44年3月19日																								
大臣	主答	起案 昭和44年3月18日																									
政務次官	アメリカ局長																										
事務次官	参事官																										
外務審議官	北米第一課長																										
官房長	主任	起案者 <i>YAMADA</i> 電話番号 446																									
受信者 在米 下田七生 在日 <i>YAMADA</i> 宮川七生		発信者 <i>YAMADA</i>																									
郵送付先		(希望発送日) 月 日																									
件名 ラウル在席アービング大使の依藤總理訪向																											
GA-2 外務省 回覈番号																											

米北1合第 1115 号
昭和44年3月19日

在外公館長殿

外務大臣

ラウル在席アービング大使の
依藤總理訪向

3月18日ラウル在席アービング大使が依藤
總理を訪問し公報、会談記録(總
經濟半 沖縄南部部会) 資料参考書
以此件送付了。

付属資料

本信送付先 米. アメリカ.